



本町議会では、昨年12月「議会改革調査特別委員会」を設置し、議員定数、議員報酬などが適切かどうか、毎月開催の委員会で見聞を交わしています。今回の討論会は来春の選挙にも大きな影響を与える議員定数や報酬をどう考えるのか議論しました。

議員定数

16人は必要だ



【杉谷】減らせば費用面でメリットはあるが、考え方が偏るなどデメリットもある。



【加藤】議員と語る会でも現状維持が望ましいという声が非常に多かった。



【大森】住民の多様な要求を反映させるためには、一定の議員数が必要だ。

議員報酬

見直し

【米本】いまの報酬では30・40代は議員に興味を持たない。30万円でも少ないと思う。

【近藤】若い人の政治への参加を促すためには、報酬を上げることも必要ではないか。

【大杖】若い人が意欲の出るような額が必要だ。

【加藤】年金を支払っている世代と受け取っている世代とで100万円の格差がある。若い世代が立候補できる体制作りが必要だ。

【岡岡】もらいすぎだという人もあるが、現状でいい。しかし費用弁償は見直すべきだ。

【野口】報酬は西部の報酬審議会で答申されるが、通勤手当は議会の中で解決できる。

【大森】収入が生計費に満たない場合、手当として保障してはどうか。

【大原】育児手当や産休手当など、若い人にも議会に出られるよう、経済的にも門戸を開く

必要がある。

【遠藤】市会議員の給与に近づけるのは難しいだろうが、通勤手当などを考えてはどうか。

現状維持

【西山】議員・議会の使命はなにかを考えたとき、報酬は現状維持に賛成する。

【岡田】大幅に上げるとは小さな規模の町村にしては難しく、住民の理解も得られない。

その他

【杉谷】16人の報酬をプーリングして、再配分してはどうか。

【吉原】市会議員は生活ができる給与が出ているので、たくさん若い人が出ている。

【西尾】3人減らした時も若干報酬を上げたかどうかという意見もあったが、報酬審議会の答申どおり、他の町村と横並びになった。

どうする議員定数・報酬は



【大原】多様な意見を吸い上げる意味でも女性や若手が出られるように、減らすべきではない。



【野口】逢坂地区と高麗地区の議員が少ない。小選挙区制を導入してはどうか。



【岡岡】定数を削減して、若い人が参加できる保証はどこにもない。



【岡田】民意を的確に反映して集約し、充実した調査研究するには、現状でいい。



【西山】政策提案を考えた時、現状が妥当だ。



【吉原】人口規模でいうと1000人に1人というのが妥当だ。



【西尾】議会は合議体として、執行部の提案を議論できる人数でなければならぬ。

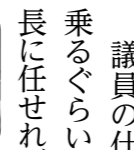


【遠藤】1人の議員が住民の状況を伺うなかで、1000人ぐらいなら自分で判断もでき、対話もできる。

削減すべきだ



【岩井】定数は2の減という信念だ。



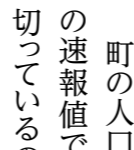
議員の仕事は区長の相談に乗るぐらいだ。集落のことは区長に任せればいい。



【大杖】定数に関しては削減すべきだ。



【米本】本町と同じような面積の若桜町の定数は10人だ。



町の人口も昨年の国勢調査の速報値で1万6500人を切っているのに、2人削減の14人にすべきだ。



【近藤】10人でも十分、同じだけの議会運営はできると思う。

その他の提案

【大杖】もっと住民との距離を縮めるために議員と語る会の回数を増やしてはどうか。年2回は少なすぎる。

【岡岡】タブレットの導入と資料のデータ化と合わせ、本会議などで配布される資料の公開を進めてはどうか。

【遠藤】議員と語る会を議会側から出かけて行うことが大事ではないか。

【米本】中学生に議会に興味を持ってもらい、議会全体を知ってもらうために、子ども議会を行ってはどうか。

【大森】議会の傍聴者が少ないが、一般質問を日曜日にしてはどうか。

【吉原】政策形成や立案能力を養うために、政務活動費を考へてはどうか。

【岡田】若者が議員になる環境を整備するために、扶養している子どもがいる場合、手当などを考えてもいいのでは。

町議会議員の報酬額		議員定数の経過	
大山町	221,000	平成 17 年	21人
全国最高額	400,000	平成 21 年	19人
全国最少額	137,000	平成 26 年	16人

大山町議会では議会基本条例を定め、その中で、議会は言論の府として議員相互の自由な討論による議論を尽くして合意形成に努めるよう定めています。

定数や報酬、語る会の運営などを、今後どうするのかを話し合うこともその一環です。皆さんのご感想を寄せていただければ幸いです。